

御祝辞

国土交通省総合政策局
局長 増田 優一

東北地質調査業協会が創立 50 周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

また、日頃から、国土交通行政の推進に暖かいご理解、御協力を賜り、この場をお借りいたしまして、深く御礼を申し上げます。

貴協会は、昭和 34 年に、20 社からなる「東北ボーリング鑿井業協会」を設立し、昭和 37 年に全国地質調査業協会連合会に参加、翌年の昭和 38 年に現在の「東北地質調査業協会」に改称され、以降、東北地方における地質調査業の発展及び技術の進歩向上を図られ、社会公共の福祉増進に努めてこられました。

このことから、これまで、貴協会の運営、事業に御尽力された歴代役員並びに関係各位に対しまして、深く敬意を表する次第であります。

地質調査業者の方々が担われる業務は、工事の「上流」に位置するものであり、事業の安全性や経済性を検討する際に、最も基本的で重要な情報を提供する役割を持つものであります。従って、地質調査業の成果の品質は、設計や施工に及ぼす影響が極めて大きいことから、その責務はますます重大になって来ております。

そうした中、貴協会では、若手技術者セミナー、地質情報管理士・地質調査技士試験・講習会、協会誌の発行や発注者との意見交換会、工業高校での講義などの活動を鋭意展開されてきました。

貴協会におかれましては、引き続き、このような技術力の向上や優れた人材の育成などに努められることにより、時代のニーズや社会の期待に的確に答えられることを期待しております。

終わりに、東北地質調査業協会並びに会員の皆様の益々のご発展と本日ご列席の皆様方のご健勝とご活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

御祝辞



国土交通省東北地方整備局長
局長 青山 俊行

東北地質調査業協会が創立 50 周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

貴協会が昭和 34 年に創立されて以来、これまで技術の研鑽に努められ地質調査技術の向上と建設技術の発展に大きな役割を果たされてこられましたことに対し深く敬意を表するものであります。

ご承知のように、東北地方の地質は、東北本州弧と呼ばれ東側の島弧前面の非活動上昇域と西側の島弧背面の活動域（グリーンタフ地域）からなっております。特に西側の地質は未固結の堆積岩類で活発な地殻変動の影響を受けるなど脆弱な地質となっており、また平地部では沖積層が厚く分布し、土木構造物にとって大きな問題となります。そのほかにも砂地盤等による液状化現象や火山活動による変質帯の存在など東北地方の地質は土木技術の面からは大変難しい問題を抱えております。このように、社会資本整備にあたっては、東北地方の特有な地質特性も十分に加味して事業を進めることが後世に残る土木構造物を造る上で極めて重要であります。

さて、東北地方の社会資本整備は昭和 30 年代より本格化しました。河川については、特に大雨による洪水への対応として河川整備が進められるとともに、治水安全度の向上に加えて生活水準の向上や産業の発展に伴う水需要の増加への対応として大規模ダムの計画や整備が本格化しました。

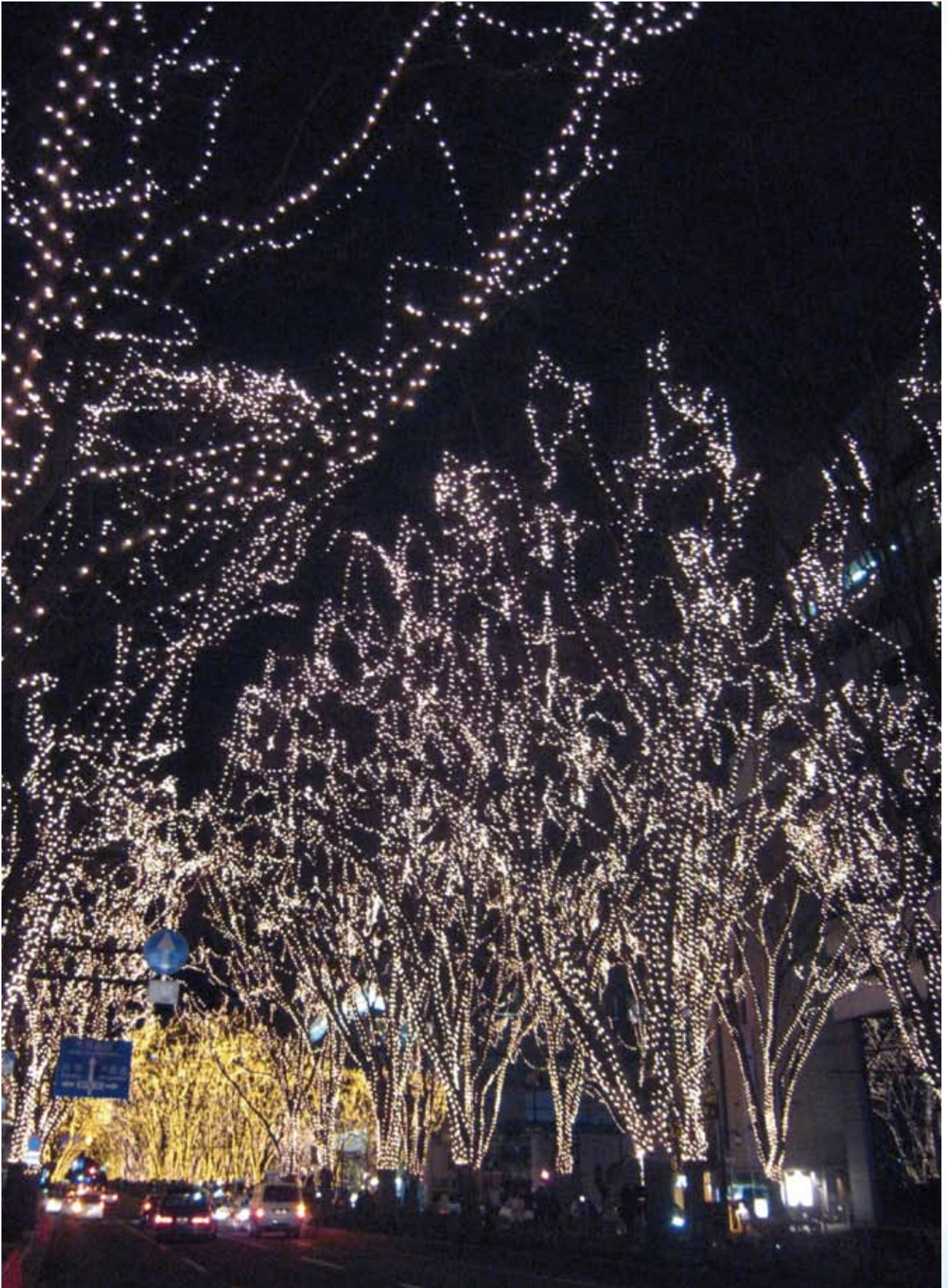
また、道路については、道路関係諸制度が昭和 30 年前後に整備され、これにより一級国道 4 号などの舗装や一次改築が本格的に進められ、高速道路は、昭和 50 年には東北縦貫道の白河～仙台間が開通するなど、順次整備が進められてきました。

このように東北地方の社会資本整備においては、この 50 年間で著しく進展し、まさに東北地方における産業の発展や観光振興、地域交流など、東北地方の発展の礎として現代において大きな役割を担っております。これらの社会資本整備に際しては、より適切な地質調査や解析が不可欠であり、皆様方の地質技術の向上とともにその一翼を担当された技術者としての熱意に改めて敬意を表するしだいあります。

東北地方は、豊かな自然環境や水資源、特有の歴史や文化に恵まれており、優れたポテンシャルを活かしながら、人・物・情報について国内外との交流・連携を深め、低炭素社会の構築など新たな時代の潮流に対応し貢献できる「多様で自立した地域」を目指す必要があります。

そのためには、長寿命で低コストの品質の高い必要な社会資本整備を戦略的に進めることが重要であり、東北地方特有の地質を踏まえた地質リスクの低減が必要であります。

貴協会の会員の皆様方におかれましては、なお一層の技術の研鑽にご尽力されますことを期待いたしますとともに、会員一同のご協力のもと、益々発展されますことを祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。



仙台市定禅寺通・光のページェント

御祝辞



社団法人全国地質調査業協会連合会

会長 瀬古 一郎

この度は東北地質調査業協会が創立50周年を迎えられ、まことにおめでとうございます。

貴協会は、昭和34年に東北ボーリングさく井協会として創立され、昭和37年には全地連設立に参画、昭和38年に現名称に改称され、今日に至るまで東北地方における地質調査業の技術力向上、社会的地位の向上、経営改善などに努めてこられました。そして、公共事業を通して地域の安全・安心に大きく貢献し発展されたことは、まことにご同慶の至りです。

近年は建設投資の縮減、入札契約制度の変革、品質確保や情報化などの多様なニーズへの対応が求められる中で、歴代の理事長はじめ役員の皆様ならびに会員の皆様には多大なご尽力とご苦勞もあったものと、心から敬意を表する次第です。また、これも偏に国土交通省はじめ地方自治体の発注機関の皆様のご指導とご鞭撻の賜物であったものと、全地連を代表して感謝を申し上げる次第です。

貴協会には地質調査技士および地質情報管理士の資格検定試験や登録更新講習に毎年ご協力をいただいております。また、平成17年には全地連技術e-フォーラム仙台、昨年はジオパークフォーラム東北が開催され、幹事協会として盛況のうちに運営いただいております、心から御礼を申し上げます。最近では貴協会と国土交通省東北地方整備局や県との意見交換会が定例化され、公共事業の品質確保についての議論や防災協定などが進展しました。そうした中で昨年は岩手宮城内陸地震が発生し、また、地すべりや土砂・斜面の災害も頻発しています。防災・減災を進める上で、市民が自ら身近な地質を理解していくことは重要であり、貴協会の活動に一層期待があつまると思われまます。

日本は4つのプレートの境界が近接する変動帯の上に位置し、造山活動が活発で地質構造が複雑です。地質は地域によって異なっており、災害や自然環境に密接に関わって、歴史や文化という地域性にも大きな影響を与えていると思われまます。これからの少子高齢化や地球温暖化の時代において、インフラ整備や既設インフラの更新・維持管理で、地域の地象を熟知する地質調査技術者がその専門性を発揮することは、地域に根ざした生活環境づくりのために不可欠と思われまます。今後、地質リスクマネジメントやジオパーク活動などの新たな領域をも広げつつ、地域の地質を判読し、地象を予見し、事業の中で反映・具現し、社会へわかりやすく説明して、ひいては貴協会が地域再生へ貢献していくことが大きな役割であると思われまます。

この創立50周年を一つの節目として、次なる10年に向けて地質調査の技術力向上に努められ、貴協会ならびに会員の皆様がますます発展されることを祈念して、ご祝辞とさせていただきます。